

菊年間スケジュール



挿し芽



誘引



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
挿し芽	←————→											
誘引	←————→											
開花						←————→						
水やり	←————→											
消毒	←————→											
ハウス管理・加湿							←————→					

周辺案内と マップとアクセス



◆電車のご利用

相老駅 → 約8分 → 大間々

わたらせ渓谷鐵道で約8分
(駅から徒歩5分)

浅草 → 約1時間50分 → 赤城駅

東武特急
「りょうもう号」で
約1時間50分
(駅から徒歩15分)

◆自動車道のご利用

北関東自動車道 太田藪塚IC 約20分 大間々

太田藪塚IC降車後「大間々・日光」方面へ
県道69号線経由約20分

大型無料駐車場完備

西 駐 車 場 200台・バス5台
北 駐 車 場 70台・バス5台
はねたき広場 69台



お問い合わせ先

関東菊花大会実行委員会
 (みどり市観光課内)

TEL：0277-76-1270 (みどり市観光課) 0277-46-7289 (みどり市観光協会)
 主催：関東菊花大会実行委員会 共催：みどり市 協力：(一社) みどり市観光協会



期間
 令和7年11月1日〔土〕～11月30日〔日〕
 午前9時～午後4時(最終入園は午後3時30分まで)

会場のご案内
 みどり市
 ながめ公園

TEL 0277-72-1968
 群馬県みどり市大間々町大間々 1635 番地

入園料	個人	団体
一般	400円	350円
小中学生	200円	150円
小学生未満	無料	

※団体は20名以上

※11月25日～11月30日は無料

主催
 関東菊花大会実行委員会
 TEL 0277-76-1270
 (みどり市観光課内)
 群馬県みどり市笠懸町阿左美 1912-1

第68回 関東菊花大会

第68回 関東菊花大会 イベント情報

大間々ながめ亭 菊華寄席・浪曲

大会開催期間中の土日祝に、ながめ余興場内で落語や浪曲などを実施します。

開催日：11月1日(土)・2日(日)・3日(月 浪曲)
8日(土)・9日(日)・15日(土)
16日(日)・22日(土)・23日(日)

時 間：第1部 12時30分～13時30分
第2部 14時00分～15時00分

料 金：無料

観光物産まつり

青森県南部町がやってくる！

開催日：11月8日(土)～11月9日(日)
内 容：菊花や菊巻きの無料配布あり(菊巻きは9日のみ)

SNS フォトコンテスト

募集期間：11月1日(土)～12月10日(水)

内 容：大会期間中に撮影した写真をInstagramに投稿して
応募するフォトコンテスト

入賞賞品：最優秀賞 Amazon ギフト券 1万円分
優 秀 賞 みどり市特産品詰め合わせ



@photo.yuka_

全国芝居小屋会議 ながめ余興場大会

全国芝居小屋会議とは、全国に16か所ある芝居小屋で組織された団体。毎年、余興場等を有する市町村で大会が開催され、今年16年ぶりにみどり市で開催されます。

ながめ余興場の“古いもの”と“新しい”ものが融合された2日間をお楽しみください。

11月29日(土) 「七代目三遊亭円楽襲名 大間々ながめ亭特別興行」

日 時 11月29日(土)

時 間 開場 午後13時00分 開演 午後13時30分

入場料 4,000円(自由席)

出演者 三遊亭 円楽(真打)、三遊亭 萬橘(真打)、入船亭 扇辰(真打)

三遊亭 遊雀(真打)、鏡味 仙志郎(太神楽)、三遊亭 愛二郎(前座)

11月30日(日) テルな大人のミニ音楽フェス&ミニマルシェ「Antiqua Nova 2025」

日 時 令和7年11月30日(日)

【有料エリア】音楽イベント

開 場 10時30分 開演 11時30分 終演 18時00分

【無料エリア】ミニマルシェ

9時00分～16時00分

料 金 前売り券 6,000円 当日券 7,000円

出演者 Oval、Kan Sano (Band Set)、Iuv、XinU



詳しくはこちらへ

※11月30日(日)には、歩行者天国イベント「みどり市商工会 サステナ ホコ天マルシェ いってんべ～！昭和の街へタイムスリップ」を開催しています。(詳しくは、地図を参照)

菊花大会の内容

ながめ公園内で毎年秋に行われる関東菊花大会。例年は大菊三本立ての盆養菊や盆栽菊、懸崖菊、大作りなど約1,000鉢が展示され菊の香りを漂わせます。



関東菊花大会の歴史

「菊のながめ」は、現在のながめ公園にあった「ながめ」という料亭が、食事に来るお客さんに花も楽しんでほしいと牡丹や菊を展示したのが始まり。10月～11月の菊の時期には、菊花壇を設置し菊人形を展示していた。

また、大間々には古くから菊の愛好会があり、戦争のために一時途絶えてしまったものの、戦後、再興してできたのが「大間々菊華会」(現在のながめ菊華会)である。

そして、昭和33(1958)年ごろに、現在の菊花大会の始まりである「第1回関東菊花大会」が大間々駅前及び大間々町内で開催される。当時の出展数は200点程度であったが、現在と同じような部門の菊が出品されていた。

平成元(1989)年の「第32回関東菊花大会」で会場が現在のながめ公園に移り、現在の関東菊花大会のかたちとなる。「ながめ」の菊人形も引き続き大会において展示され、水戸黄門や大岡越前、国定忠治など、様々な作品が展示された。

【だるま作り】

全体が丸っこくダルマのような形なのでこの名がつけました。鉢が軽く場所をとらず、乗用車で運べる等の利点があるため人気があります。



【特殊作り】

懸崖用の小菊を使って動物や鳥等の形に仕立てるもので、大きなものは五重塔や富士山、扇作り、杉作りなどがあります。



【静岡懸崖作り】

静岡をイメージし、中央に富士山、横に半島が突き出ています。花に囲まれた内側は駿河湾を構想しています。



【大作り(千輪咲)】

一本の苗を何回も摘心を繰り返して枝数を増やし、半球型になるように花を並べて咲かせる仕立て方です。



【前垂懸崖作り】

断崖絶壁に自然が作った姿態の妙味から構想されました。中央が盛り上がり、断面がかまぼこ型になっているように仕立てます。



【盆栽作り】

山菊と呼ばれる小菊の中で節間が詰まって幹の太りやすい品種を使って盆栽に仕立てます。

